

だいせん市議会だより

あなたのギカイ

令和8年2月1日 第83号 令和7年12月定例会・令和8年1月臨時会の内容を分かりやすくお伝えします。

本会議場に

未来の声が響く

CONTENTS	
こんなことが決まりました……………	P 2
所管事務調査・行政視察……………	P 5
聞いてみたいなこと……………	P 6
中学生議会・懇談会……………	P 13
きかせて！あなたのミライ……………	P 14

令和8年中学生議会
(矢曲庁舎本会議場、1月8日)



令和7年第4回定例会 令和8年第1回臨時会

議案審議

大仙市の

こんなことが決まりました

令和7年 第4回定例会 11月28日～12月18日

令和8年 第1回臨時会 1月20日



令和8年
第1回臨時会



令和7年
第4回定例会

令和7年 第4回定例会

専決処分報告……………	1件
人事案……………	1件
条例案……………	7件
単行案……………	7件
補正予算案……………	11件
陳情……………	5件
意見書案……………	2件

令和8年 第1回臨時会

専決処分報告……………	1件
補正予算案……………	1件

※議会用語解説はこちらから



今号では
この中から
3つを **Pick up**

全ての議案名と審議結果は、大仙市議会ホームページをご覧ください。



議案の審議結果

〈報告第1号〉専決処分報告について（令和7年度大仙市一般会計補正予算（第10号））
〈議案第1号〉令和7年度大仙市一般会計補正予算（第11号）

Pick up 1

物価高騰への緊急支援を 実施します。

物価高騰対策として、市民一人一人への給付をはじめ、子育て世帯や農業者、福祉施設等に幅広い支援を行います。

●市民一人当たり1万円を給付（1月20日時点で大仙市に住所がある方）／子育て世帯に、18歳以下の児童一人につき2万円を給付／住民税非課税世帯に、灯油等購入費の一部を助成／社会福祉施設等に、光熱水費等と食料費を助成／保育所等に、給食の食料費物価高騰分を助成／園芸作物を出荷・販売している認定農業者に、肥料や農薬など農業資材のコスト上昇分の一部を補助／養豚経営のための配合飼料購入に対する経費の一部を補助／肉用牛と酪農経営の安定と継続を図るため、子牛と生乳の出荷に対して定額を補助

こんな質問が出ました

Q 市民一人当たり現金1万円を支給することについて、公金受取口座の登録状況と、口座登録がない市民への対応はどうなるのか。

A 公金受取口座の登録率は約55パーセントから60パーセントであるが、これまでの給付実績や児童手当の口座情報等も活用す

ることで、約7割の市民に対し、申請不要の「プッシュ型」で3月中旬に振り込める見込みとしている。残りの約3割の方々については、通知発送時に口座情報を確認し、4月中旬以降に順次給付するスケジュールを想定している。

〈報告第7号〉専決処分報告について（令和7年度大仙市一般会計補正予算（第7号））
〈議案第140号〉令和7年度大仙市一般会計補正予算（第9号）

Pick up 2

クマ対策強化のため 奨励金を支給します。

ツキノワグマなどの捕獲に携わる猟友会の実施隊員の負担を軽減するため、指定管理鳥獣の捕獲1頭につき2万円を支給します。あわせて、誘引樹木伐採支援事業や箱わたの追加購入、市民への注意喚起などの対策を行います。

こんな質問が出ました

Q 電気柵設置に関する補助

として16件実績があるが、補助対象者はどのような方々なのか。また、教育施設から電気柵設置の要望は届いていないか。

A 農家がほとんどで令和7

年5月から8月下旬にかけて電気柵の設置を実施しており、効果があったと伺っている。また、教育施設からの電気柵設置の要望は現段階では届いていない。



大仙市公式 LINE でクマ出没による注意喚起情報を配信しています



大仙市 LINE 公式
アカウントへの登録は
こちらから

〈議案第140号〉令和7年度大仙市一般会計補正予算（第9号）

Pick up 3

神岡庁舎と市民センターの 照明を省エネ改修します。

神岡庁舎と神岡市民センターの執務室と会議室などの照明を、消費電力の少ないLEDに更新します。

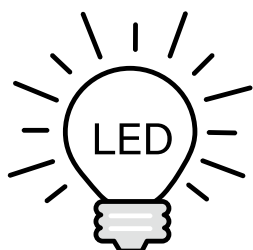
LED化による年間削減効果は、電力使用量が更新前の約6割に当たる約1万5000キロワットアワー、CO2排出量は神岡庁舎の年間排出量の約8パーセントに当たる約6・2トンの見込みです。

こんな質問が出ました

Q 神岡庁舎の照明LED化

工事を実施することにより、電気料金の削減効果はいくらか。

A 年間、約50万円程度を見込んでいます。



討論

第4回定例会で討論された内容を紹介します

陳情第1号「夜勤規制と大幅増員で安全・安心の医療・介護の実現のため国に意見書提出を求める陳情」および陳情第2号「ケア労働者の処遇改善のため、報酬10%以上引き上げを求め国に意見書提出を求める陳情」に対し、次の意見がありました。

賛成討論

佐藤 文子 議員（日本共産党）

陳情第1号は、看護師や介護士の離職や人手不足の要因である低賃金や過密・長時間労働を抜本的に改善するための内容である。報酬引き上げに関わる問題であるが、患者や利用者の負担増とならないよう配慮されている。

陳情第2号は、賃上げと人員増を実現するための診療・介護報酬引き上げの根拠を明確に示している。

命を預かり常に緊張を強いられる多忙な業務であり、見合った賃金と、ゆとりをもって患者や利用者に向き合い、長く働き続けられる職場環境となるよう採択を求める。

教育厚生常任委員会での意見

陳情第1号について、国において、臨時の報酬改定や補正予算により、本陳情の趣旨に沿った対応が取られたことを踏まえ、趣旨採択が適当である。

陳情第2号について、国において、本陳情の趣旨に沿った対応が取られたこと、10%以上の報酬引き上げは関係現場にとって極めて喜ばしいが実現可能性の点で趣旨採択が適当である。

陳情第7号「インボイス制度の廃止をめざし、事業者の負担を軽減する経過措置を継続するように求める意見書を国に送付することを求める陳情」に対し、次の意見がありました。

賛成討論

佐藤 文子 議員（日本共産党）

インボイス制度は、売り上げ1000万円以下の小規模事業者にも新たに納税義務を負わせ、手取りの減少や経理・実務負担の増大を招く懸念がある。制度が引き金となり廃業に追い込まれるケースも起こっている。

地域経済を支える小規模事業者や個人事業主が経営を継続できるよう、制度の廃止を目指し経過措置の継続を求めるのは当然のことである。

反対討論

秩父 博樹 議員（公明党）

インボイス制度は、国に納めるべき消費税額を正確に把握し、税の公平性を高める制度である。

2割特例・8割控除の経過措置や、IT補助金、持続化補助金などの支援策も講じられ、事業者間で不当な扱いが生じないよう公正取引委員会による監視・対応が行われている。

廃止ではなく、現場の声に丁寧に耳を傾けながら改善を求めていくべきである。

令和7年第4回定例会 賛否一覧

この表は賛否が分かれた議案等のみ記載しています

議案等名	会派・議員名	議決結果	だいせんの会					たすきの会					けやきの会					公明党	日本共産党	市民クラブ	参政党	新政会				
			高橋	佐藤	高橋	高橋	古谷	橋村	石塚	山谷	橋本	門脇	後藤	青柳	佐藤	佐藤	大山	安達	佐藤	本間	秩父	挽野	佐藤	菊地	小須田	小笠原
			徳久	芳雄	敏英	智也	武美	誠	柏	喜元	琢史	智宏	健	友哉	隆康	育男	利吉	成年	芳則	輝男	博樹	利恵	文子	伸	逸子	昌作
陳情第1号 夜勤規制と大幅増員で安全・安心の医療・介護の実現のため国に意見書提出を求める陳情	趣旨採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	
陳情第2号 ケア労働者の処遇改善のため、報酬10%以上引き上げを求め国に意見書提出を求める陳情	趣旨採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	
陳情第7号 インボイス制度の廃止をめざし、事業者の負担を軽減する経過措置を継続するよう求める意見書を国に送付することを求める陳情	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	議長	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◎	◎	●	●		

◎：採択 ○：趣旨採択 不採択：● 議長は採決に加わりません。

産業建設常任委員会 所管事務調査

市民からの市政評価において、特に要望の強い「除排雪体制の充実」について、現状や課題を把握するため、除排雪業務の委託契約先であり、実際に除雪に携わっている事業者の方々との意見交換会を行いました。

課題として次の三つが挙げられました。

①除雪機械や燃料費の高騰などにより、市の積算単価が現在の物価高騰に対処していない。

②オペレーターの高齢化や若者の採用が進まないことから、作業員の確保が困難な状況にあり、今後、除雪に参加できない事業者が出てくる可能性も否定できない。

③市の除雪出動基準（降雪10センチメートル）を見直し、吹き溜まりによる視界不良や雨雪、路面凍結など、降雪量にかかわらず走行に支障が生じる場合の臨機応変な出動が大事である。

これらを踏まえ、市民が安心して安全に暮らせるよう、道路除雪基本計画の見直しも含め、委員会として引き続き注視してまいります。

（産業建設常任委員会

委員長 安達 成年）



除排雪業務等委託契約企業体の代表者との意見交換会（11月17日）

教育厚生常任委員会 行政視察報告

11月7日に県庁を訪問し、市立大曲病院への補助および地域医療構想における大仙・仙北の精神科医療について視察研修を行いました。県からは医務薬事課、障害福祉課、市町村課より説明をいただきました。県内の人口が急速に減少する中、大仙・仙北にある公立の精神科病院の経営が厳しい状況にあること、市立大曲病院は国からの交付金がないと運営ができない実状を、資料とともに訴えました。ただし、県内にある民間の精神科病院が健全な経営を続けていることも率直に申し上げました。

県からは、大仙・仙北の精神科医療は、入院患者の内訳を見ると、秋田県立リハビリテーション・精神医療センターは救急患者や措置入院などが多く、民間の精神科医療法人は任意入院が中心、市立大曲病院はその中間的な位置付けの医療機関であり、認知症患者も多いと認識しているとのことでした。また、地域医療構想の見直しについては、改めて各病院の役割分担の議論が必要との見解が示されました。

（教育厚生常任委員会

委員長 石塚 柏）



視察内容を議員全員協議会で共有（11月28日、大曲庁舎大会議室）

所属する常任委員会に、次のとおり変更がありました。

変更後

総務企画常任委員会

高橋

敏英

教育厚生常任委員会

佐藤

芳雄

聞いてみたいな
こんなこと



一般質問

一般質問とは？

皆さんの生活に関わる大切な内容について、市議会議員が市に対して質問を行います。今回の一般質問であなたの生活に関する内容はありますか？

質問議員11人 質問項目22件

一般質問の全ての内容を動画で視聴できます。各議員顔写真の下にあるQRコードを読み取り、ご覧ください。

産後ケア事業について



菊地 伸
(市民クラブ)



Q「大仙市こども計画」の「こども・保護者アンケート調査」によると、保護者の4人に1人以上が産後の指導・ケアに満足していないという現状である。

認知度や利便性を高めるための改善策を伺う。

A市内に施設整備を進める事業者に対し、国の事業を活用して支援を実施し、受け入れ体制の充実を図ってきた。秋田市、湯沢市、大仙市の3施設と委託契約を結んでおり、利用者は10月末時点で182件と、年々増加傾向にある。

利用しやすい環境整備のため、2施設で空き状況の確認や予約がスマートフォンで対応可能となっており、今年度から1回の申請で期間内の利用ができるようにした。

認知度向上のため、母子手

帳交付やパパママ教室、出産後の赤ちゃん訪問などで事業の周知を図り、赤ちゃん訪問時に、その場で申請書に記載するなど、利用者の負担を減らす工夫もしている。

引き続き利用者の声に耳を傾け、安心して子育てができるよう支援体制を整え、利便性の向上と周知の徹底に努めていく。

この他、オーガニックビレッジ宣言、アメリカシロヒトリの防除体制について質問しました。



充電式電池、リチウムイオンバッテリーの回収について



門脇 智宏
(たすきの会)



Q スマートフォンやタブレットなどさまざまな電子機器に使われている充電式電池やリチウムイオンバッテリーは、劣化や破損などにより発火の危険を伴うが、膨らみなどがあれば家電量販店への持ち込み処分を断られることもあるため、自治体が主体となって回収することが望ましいと考えるが、市の考えを伺う。

A 市では、内蔵された充電式電池を取り外していない製品は小型家電として回収しているが、外付けバッテリーやモバイルバッテリーは回収しておらず、市内8カ所のJBRC(※1)協力店舗への持ち込みを案内している。

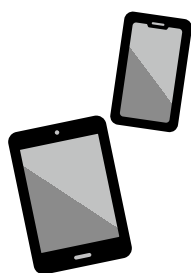
しかし、協力店舗での回収においては、JBRCに加盟していないメーカー製や膨張した電池は回収対象外

であるため、市で預かり、絶縁処理を行い保管している現状にある。

国では令和8年度以降、充電式電池使用製品の回収・リサイクル義務化などを検討しており、今後の動向を注視するとともに、JBRC回収対象外の充電式電池について、市が主体となって回収できる方法を検討していく。

この他、大仙市災害時応援協定について質問しました。

JBRC(※1)
小型充電式電池の回収・再資源化を行う一般社団法人。



予防医療の推進について



秩父 博樹
(公明党)



Q 肺炎予防のため「RSウイルス感染症」の周知と感染予防への注意喚起が必要である。市の考えを伺う。

A RSウイルス感染症は、全年齢で感染する可能性のあるかぜ症状を伴う呼吸器感染症であり、生後6カ月未満の乳児や基礎疾患のある方は重症化する場合もある。近年、年間を通じて流行する傾向にあり、家庭や福祉施設などでの集団感染も懸念されるため、リスクや対応のほか感染予防策を、市ホームページや公式SNSで周知していく。

Q 妊婦向けRSウイルスワクチン予防接種を対象者へもれなく周知するための方法について伺う。

A 妊娠28週から36週までの接種が望ましいため、母子手帳の交付時に周知する。定

期接種の開始時点で母子手帳を交付済みの妊婦には個別に通知したい。

Q 高齢者向けRSウイルスワクチン予防接種の接種費用の助成について考えを伺う。

A 現時点で重症化リスクや死亡例に関する知見が十分に整理されておらず、国の専門機関の評価も限定的であることから、国の動向を注視していく。

この他、プラスチックごみリサイクルのさらなる推進について質問しました。



柏台太陽光発電所とその関連の問題について



小須田逸子
(参政党)



Q 太陽光パネルには寿命があり、将来、大量の廃棄物が発生するため、高額な処理コストによる放置や不法投棄の懸念がある。

A 柏台太陽光発電所について、令和17年の契約終了時の廃棄費用の負担、積み立て状況、処理方法について伺う。

Q 所有者が4320万円の廃棄費用を積み立て、市も法に基づき約5000万円を積み立てる。廃棄は所有者側が実施し、廃棄方法や契約終了後の展望は、その時点の法令や状況を勘案し判断する。

Q 太陽光発電補助金交付時のパネル管理や廃棄の説明状況について伺う。

A パネルのメンテナンス説明は施工業者が行うべきであり、廃棄の方法・費用等は、

パネルの寿命が長く、今後、技術や法令の変化が考えられるため、市としては説明していない。

Q 農地転用してまで太陽光発電設備を設置すべきではないと考えるが、見解を伺う。生産性が高い農地へのソーラーパネル設置は制度上極めて困難である。

A 国では無秩序な大規模開発の規制強化を検討しつつ、住宅等への設置は重要な取り組みとしており、市としては地域と共生できる形で普及に取り組む。



柏台太陽光発電所

農林業の振興について



佐藤 芳則
(けやきの会)



Q 農業の後継者・新規就農者の確保育成について現状と計画を伺う。

A 新規就農者研修施設で栽培や経営に関する研修を行い、累計204人を育成している。今後は策定中の「新規就農者研修活性化プラン」に基づき、担い手の確保育成に取り組んでいく。

Q 「人・農地プラン」の作成規模と実績を伺う。

A 全集落を網羅する65地区で作成し、農地集積などに成果があった。本年3月から16地区の「地域計画」へ移行しており、地域の農地利用の将来像を明確にする計画となるよう、関係機関が一丸となり取り組みたい。

Q 林業資源の有効活用について、協議体の有無や活動内容、防災施策を伺う。



A 「秋田県再造林推進協議会」、「雄物川流域林業活性化センター」のほか、担い手の確保に努める「仙北地方林友会」などの組織と連携を図っている。山林の管理が適正に行われないことにより災害発生の危険性が高まるため、間伐や再造林を促進するため森林再生支援事業や、山地災害未然防止事業により森林の保全、林道管理に努めていく。

この他、体育館への空調設備の設置について、産業育成、企業誘致および雇用の創出について質問しました。

空き家対策について



佐藤 隆康
(たすきの会)



Q 集落近くの空き家にクマが生息していた事案が発生しており、クマ対策の面からも対策が望まれる。

空き家調査等による意識啓発の進捗状況について伺う。

A 例年12月から、把握する全ての空き家を危険度別に区分けする調査を行っている。

空き家所有者に対し、利活用・適正管理・解体などの概要を掲載した「空き家対策総合パンフレット」を作成し、意識啓発の向上を図っている。

Q 相続人等への適正管理の依頼や指導後の反応と今後の方向性について伺う。

A 納税通知書へのお知らせ同封や、戸内連携により関係者に適正管理通知を発送するなど、現状把握に努めている。空き家の解体実績は

増加しているが、新規空き家も増え総件数は横ばいであり、引き続き適正管理の促進と認知拡大に努めている。

Q 個人向け空き家解体補助金を自治会へ適用できないか伺う。

A 自治会向け空き家等解体補助金の要件である10年間の跡地利用や、所有者同意の難しさが活用の妨げとなっており、跡地利用期間の要件撤廃を「空き家等対策協議会」に諮っている。

この他、誘引樹木伐採事業費補助金について質問しました。



空き家対策総合パンフレット

特集 ギカいのじいちゃん

一般質問 について、何をしているのか

Q1 一般質問はどんな話を話そうかなの？

A 議員が、まちの課題や住民の声をもとに行政へ質問し、考え方や今後の取り組みを確かめる場です。

議員が質問↓行政の答弁↓議員の再質問とキャッチボールのように議論を重ねることで、課題の背景や今後の方針がより具体的になります。

Q2 まちの施策についてつながるの？

A 住民の声を行政に届け、課題を共有する大切な機会です。質問や提案がきっかけとなり、事業の改善や新しい取り組みの入口になる役割を担います。

Q3 一般質問を見るには？

A 傍聴席で議員と行政のやり取りを見ることが出来るほか、YouTubeでライブ中継と録画配信も行っているのど、自宅でも視聴できます。

まちの課題がどう話し合われているのか分かり、まちの「今」と「これから」を知る手掛かりになります。



大仙市の観光について

Q 第3次観光振興計画の進捗と成果・課題について伺う。

A 「主要観光施設入込客数」や「宿泊者数」など六つの指標のうち、五つについて既に達成、または達成見込みであり、特に外国人宿泊者数は9月までで2881人と、前年実績をすでに上回っている。

台北国際旅行博への出展や、SNSの活用、世界少年野球大会の誘致などによる効果と考えているが、ニーズに応じたコンテンツ提供やインバウンドも含めた受け入れ体制などに課題も残る。

Q インバウンド需要の受け入れ体制の状況と、先行投資が難しい個人経営の商店や飲食店への支援について伺う。

A 宿泊施設では多言語キャッシュレス決済などが進んでいるが、商店や飲食店は一部対応にとどまっている。さらなる体制の整備が重要であることから、今年度、旅行者目線での調査や、インバウンド受け入れに向けたセミナーを実施した。

市観光物産協会でもガイド育成講座などを実施しており、受け入れ体制の強化につながるセミナーや多言語対応への支援など、必要な取り組みを関係団体とともに進めていきたい。



高橋 智也
(だいせんの会)



クマ出没による市民の屋外活動の制限に対する取り組みについて

Q クマの人里への出没が増加し、屋外で安心して活動できない状況が続いている。

A 屋内施設の無料または低額での開放や、子どもや高齢者向けの運動教室など健康維持の取り組みが必要と考えるが、見解を伺う。

A 高齢者の健康維持に関して、シニアいきいき体操塾や住民団体への運動支援、出前講座などにより、屋内でもできる運動の普及に努めており、こうした取り組みが、高齢者の健康維持につながる支援になると考えている。

11月15日から、児童館や体育館など27の公共施設を、子ども向けに開放している。開放時間は施設によって異なるため、ホームページで詳細を周知している。

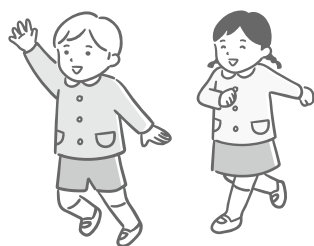
Q 無料開放による指定管理者の収入減に対して補償が必要ではないか。経営悪化は、市民サービスに影響を及ぼしかねないため、見解を伺う。

A それぞれの施設において空き時間を活用して開放しており、現時点で収入減は生じていないが、負担が生じる場合はサービス低下につながるよう対応する。

この他、国の大型補正予算に対する大仙市の対応について質問しました。



山谷 喜元
(たすきの会)



高校生への通学定期券 購入助成について



佐藤 文子
(日本共産党)



Q 高校授業料無償化で、保護

者負担は大幅に軽減されたが、通学費負担には大きな格差がある。県内外で高校生の通学支援を行っている事例もあり、希望した学校で学び続けられるよう行政が応援する意味からも、バスや電車の定期券購入への助成について見解を伺う。

A

高校教育における経済的負担を、通学費を含め多額であると感じる家族は少なくないと考えている。

子育て支援の動向として、昨年10月から、児童手当の対象年齢が18歳に引き上げられたほか、公立高校の授業料無償化や、私立高校の授業料軽減など、経済的支援は充実してきている。

さらに、18歳までの医療費無償化や奨学資金貸与、利子補給、バス・鉄道会社による学生割引など、官民で

多様な支援が行われている。

定期券購入助成は、高校生の学びを応援する上で一定の効果があるが、自家用車などその他の交通手段との公平性の観点などから課題が多い。現時点で助成を行う予定はないが、国県等の支援制度や、市として充実に努めている子育て支援制度を活用していただきたい。

この他、農業問題について質問しました。



認知症対策について



挽野 利恵
(公明党)



Q 市の認知症患者数と割合について伺う。

A 令和7年12月1日現在、要介護・要支援認定者のうち、認知症生活自立度Ⅱa以上が3798人で、65歳以上高齢者2万9422人の約12・9%で、全国平均とほぼ同率である。

なお、国の推計を当てはめると、認知症の疑いのある方が、さらに約4500人存在すると考えられる。

Q 市の相談体制、相談件数について伺う。

A 相談体制は、市内5カ所の高齢者包括支援センターのほか、グループホーム等が開設する「認知症なんでも相談所」などで専門職が対応している。相談件数は令和5年度は200件、令和6年度は210件、令和7年度は10月までで122件

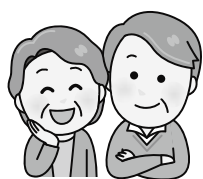
である。

Q 早期発見、進行予防、早期治療のための「もの忘れ検診」を導入してはいいかがか。

A 「もの忘れ検診」は、早期発見により症状の進行を遅らせることにつながる有効な取り組みである。

これまで認知症に対する理解深化や早期対応を図ってきたが、重度化してから受診する例もあるため、導入の自治体を調査し、導入の可能性を研究していきたい。

この他、子宮頸がんおよびHPV関連がんを予防するHPVワクチンについて質問しました。



大仙市農業の 行政としての方向性



本間 輝男
(けやきの会)



Q 令和7年産米の生産量や品質等、市全体の状況を伺う。

A おおこ農協管内で、12月3日現在、米買入数量は59万9383俵、1等米比率は98・5%で、収量、品質とも高水準と伺っている。

生産者に対し支援を行う必要がある。

Q

農政の先行きが見えにくい中、今後の方向性について市長の見解を伺う。

A

高齢化や担い手不足といった課題があり、策定中の第5次農業振興計画に基づき、「力強いだいでせん農業」を目指す。これまで以上に現場へ赴き、皆さまの意見を施策に反映させ、農業の持続的発展に努めていく。

Q 耕作放棄地の調査方法と対策について伺う。

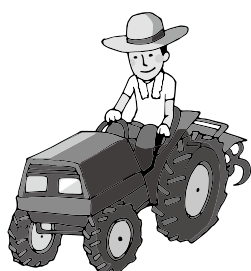
A 令和6年度は対象約45・5haのうち、再生可能が約11・6ha、再生困難が約6・8haである。

発生防止や解消に向け、各種支援事業を活用し、農地保全を図っていく。

Q 市の水田経営面積の約65%を担う個人経営農家に、市独自の農業機械購入助成が必要ではないか。

A 中山間地域や有機農業・環境負荷低減等、意欲のある

この他、令和7年度の予算執行状況と国の補正予算への対応について質問しました。



特集 ギカいのしごと

市議会だより 議会をもっと身近に

Q1

市議会だよりの役割は？

A

議会で何が話し合われ、どんなことが決まったのかを、主権者である市民の皆さんに伝えるために発行しているのが市議会だよりです。

市議会だよりのほか、ホームページ・Instagram・YouTubeなど、さまざまな媒体で情報を発信しています。

Q2

市議会だよりの編集について

A

市議会だよりは、広報広聴常任委員会が編集しています。

本会議や委員会で話し合われたものから「これを紹介しよう」と企画をまとめ、小学生へのインタビューなども行い、親しみやすく読みやすい紙面づくりに努めています。



市議会だよりの編集を行う広報広聴常任委員会

各校代表生徒の質問一覧

No.	学校名	質問者	質問
1	仙北中学校	佐々木 咲来 こまつ いちか 小松 依史	仙北地域のスポーツ施設や文化施設 エリアの活性化について
2	大曲中学校	たかはし じん 高橋 迅 みうら めい 三浦 芽依	「大曲の花火」における物品販売を 通した中学生と地域との関わりにつ いて
3	大曲西中学校	みうら いつき 三浦 樹 さとう ひより 佐藤 ひより	古紙・アルミ缶回収収益を活用した地 域イベントの参加促進について
4	大曲南中学校	すかわら たける 菅原 丈瑠 もがみ ひさき 最上 日咲	「中学生屋台」を中心とした市内全 域の中学校主催のイベント開催につ いて
5	平和中学校	こんの かける 今野 駿 こばやし あいな 小林 愛奈	神岡地域の民話や伝承を継承するた めの「神岡ふるさと学習」について
6	西仙北中学校	たかね むねちか 高根 宗親 すがわら あやの 菅原 綾乃	「大綱米プロジェクト」を通じた地域 活性化について
7	協和中学校	しんどう よしと 進藤 嘉人 かとう だいし 加藤 大志	「ちいきみんなのきょうわ祭」の連携 強化について
8	南外中学校	か が いちか 加賀 一花 ささき かほ 佐々木 華穂	誰もが安心して生活するための情報 発信について
9	太田中学校	うえぞの よしまる 上園 彬丸 ふじみね さくや 藤峰 咲耶	地域の大切な資源である「大仙市の 温泉」を活かした観光誘致について
10	中仙中学校	いとう えみか 伊藤 笑花 とみおか けん 富岡 純仁	「コスモスで地域を活性華」について

中学生議会を開催しました

1月8日、市役所本会議場において「大仙市中学生議会」を開催しました。市内10中学校の代表生徒20人が中学生議員として参加し、市政や地域課題をテーマに一般質問を行い、市長や副市長、教育長が市の考え方や今後の取り組みについて答弁しました。

詳しくは次回号(5月1日)でお知らせします。



録画配信はこちら

中学生と市議会議員が 大仙市の未来を語り合う

～市議会議員との懇談会～

中学生議会終了後、参加した生徒と市議会議員による懇談会を開催。五つのグループに分かれ、議員が各グループを回りながら意見交換を行いました。

緊張感のある議場での中学生議会とは変わって、和やかな雰囲気の中、大仙市の魅力や将来への思いなどについて、率直な意見が交わされました。



きかせて！あなたのミライ

大仙市の小学生が将来の夢を語るコーナーです。



さいとう しず 齊藤 志珠 さん (大曲小学校6年)

■ぼくは、学校で進んで発表しています。みんなと話し合ったりおたがいの意見を交換したりするのが楽しいです。特に算数の時に、じっくり考えたりひらめいたりすることが多いので、分かったことを積極的に発表していきたいです。■ぼくは、ルービックキューブを練習しています。友達がとても速くそろえていて、すごいと思いました。それがきっかけで、ぼくもやってみたくて始めました。何度も練習して、30秒で全ての面をそろえることができるようになりました。■ルービックキューブの世界記録は3秒です。今はまだ30秒だけど、さまざまな技を身に付け、たくさん練習していきたいです。そして、ギネス記録を3秒から2秒に変えてみたいです。

3月定例会

日	月	火	水	木	金	土
2/15	16	17	18	19 本会議 議案等上程	20	21
22	23	24	25	26	27	28
3/1	2 本会議 一般質問	3 本会議 一般質問	4 本会議 予算質疑等	5 各常任委員会 議案審査等	6 各常任委員会 議案審査等	7
8 各常任委員会 議案審査等	9	10	11	12	13 本会議 委員長報告等	14

※定例会日程は変更される場合があります。
変更内容は、議会ホームページでお知らせします。



市議会だよりのご感想などをお寄せください

市議会だよりのご感想や大仙市議会に対するご意見、ご要望などを次の方法により、議会事務局へお寄せください。

- ①郵 送 ・宛先：〒014-8601 大仙市大曲花園町1番1号
大仙市議会事務局あて
- ②FAX ・番号：0187-62-8822（議会事務局専用）
- ③メール ・アドレス：gikai@city.daisen.lg.jp

こちらのQRコードからメールを作成いただけます。



議会の傍聴について

本会議および委員会は公開されており、傍聴することができます。傍聴をご希望の方は、議会開会日に、市役所大曲庁舎3階、議会事務局窓口までお越しください。

請願・陳情について

3月定例会で審査される請願・陳情は、2月9日(月)までに提出されたもので、それ以降に提出されたものは、次の定例会での審査となります。

編集 後記

副委員長
菊地 伸

■去年は多くの方からご支援を賜り、市議会議員として活動することとなりました。本当に感謝しております。皆さまから市政に対するさまざまなご要望をいただきましたが、今後もその声に真摯に耳を傾け、地域の課題解決に向けて力を尽くしていきたいと思ひます。■中学生議会では、大仙市の活性化に向けた若者ならではの意見をたくさんいただきました。大仙市の未来を担う貴重なアイディアだと思います。ふるさとのために頑張ろうとする彼らの姿は素晴らしいかったです。将来、大仙市の未来を支えてくれることを期待しています。■今年は、丙(火)と午(馬)を組み合わせた干支で、情熱と行動力、飛躍や成長を象徴する年とされています。また、新しい挑戦に光が差し、前進する力を感じられる一年になるといわれています。大仙市がより良い方向へと発展する年となることを願っております。

FacebookとInstagramで議会の情報を発信しています

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



Facebook



Instagram

あなたのギカイ 14